

なぜ「地域展開」が必要なのか

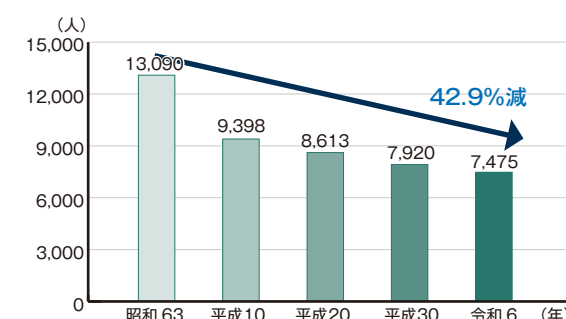
体力・技術の向上だけでなく、集団活動の中で責任感・連帯感を養うことができる部活動は、教育面で大きな意義を持ちます。しかし、現在のままでは続けていくことが難しくなっています。

続けられない理由1

希望する活動ができない

市内22中学校には、約220の部活動がありますが、少子化による生徒数と教員数の減少で、廃部や休部になる部活動が増えています。

市内中学校生徒数の推移(昭和63～令和6年)



続けられない理由2

増え続ける教員への負担

部活動指導、休日の練習や大会が、教員の長時間勤務の要因のひとつとなっています。また、指導はやりがいもありますが、各種目の指導経験や専門性がない教員にとっては、特に大きな負担になることがあります。



部活動の新しいカタチ みんなのブカツ

A New Approach to Club Activities

中学校生活の楽しみの一つ、「部活動」。これまでは中学校の教員が顧問となり学校主体で行ってきましたが、急速な少子化や教員の働き方改革を背景に、地域が主体となる仕組みに移行する動き「部活動の地域展開」が、全国的に進んでいます。本市でも中学校の休日に行う部活動を地域主体の活動へ展開するため、さまざまな取り組みを始めています。



Q 地域クラブ「みんなのブカツ」とは？

A 四日市市教育委員会が認定した地域クラブのことで、中学生が安心して活動できるよう、四日市市地域クラブ活動ガイドラインなどに示された一定の基準を満たしています。

令和8年秋、休日の部活動は終了し 地域クラブ「みんなのブカツ」へ移行します

平日は自分の通う学校に設置された部活動に参加し、休日は地域クラブで活動进行します。こどもたちは自分に合った種目やチーム・団体を選び、学校の枠を超えて集まった仲間と共に目標を持って活動できます。これまでの学校部活動の良いところは残し、新たな仲間やチーム・団体で活動する。それが、地域クラブ「みんなのブカツ」です。

平日



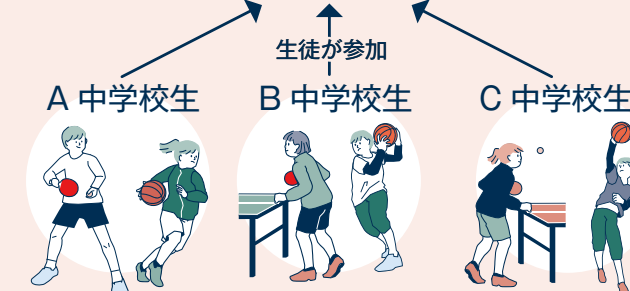
学校部活動



休日



「みんなのブカツ」



地域展開の今とこれから

これまでの市の取り組み

令和5年度から「総合型地域スポーツクラブとの連携」と「拠点型活動」の2本柱で、実証事業に取り組んできました。今年度は、五つの総合型地域スポーツクラブとの連携、16種目の拠点型活動を行い、総勢1,500人を超える生徒が活動しています。来年度には、活動頻度や活動場所をさらに充実させ、生徒たちの活動の選択肢を増やしていきます。

令和7年度

総合型地域 スポーツクラブとの連携

既存の総合型地域スポーツクラブが中学生の休日の活動を受け入れる

- 活動場所 各クラブが使用する施設や学校施設
- 指導者 各クラブの指導員
- 実施種目 クラブによる

拠点型活動

各種目の協会・連盟などが主催し、市内に一つ以上の拠点を一つつて活動

- 活動場所 市内スポーツ・文化施設、学校施設など
- 指導者 社会人指導者、退職教員、兼職兼業を希望する教員
- 実施種目 軟式野球、剣道、柔道、ハンドボール、テニス、サッカー、バスケットボール、卓球、バレーボール、ソフトテニス、水泳、バドミントン、陸上競技、ソフボール、吹奏楽、合唱

令和8年度

「みんなのブカツ」

新たにできる地域クラブ

これからの動き

	令和7年度		令和8年度		令和9年度	令和10年度以降
	10月～2月	3月	4月～8月	9月～11月	12月	
		体験・見学期間	地域展開開始	完全地域展開		
学校部活動	運動系は夏の中体連、文化系は秋のコンクールまで学校部活動を行い、学校名で大会・コンクールに出場			休日は実施しない	平日は学校部活動を実施	
令和7年度の中学2年生	学校部活動に参加					
令和7年度の中学1年生	学校部活動に参加			休日は「みんなのブカツ」として活動・大会参加	平日は学校部活動に参加	
令和7年度の小学6年生			学校部活動に参加	休日は「みんなのブカツ」として活動・大会参加	平日は学校部活動に参加	

どこで活動できる？

随時、四日市市教育委員会ホームページなどで、実施種目・クラブ名・活動拠点などを紹介します。また、令和8年の春から地域展開の本格実施までに、見学・体験期間を設けます。いろいろな種目やクラブの活動を見て、どの「みんなのブカツ」に入るかを決めることができます。



本市の目指す地域クラブ「みんなのブカツ」

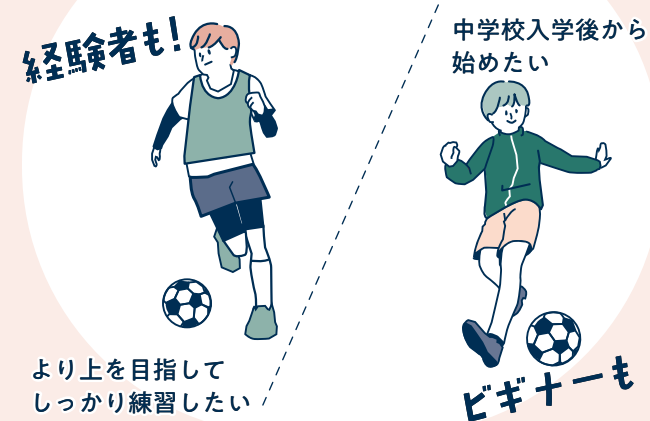
多くの仲間と活動できる



さまざまな種目から選べる



誰もが楽しめる



生活スタイルに合わせて活動できる



地域展開のメリット

こども

- ・専門的な指導が受けられる
- ・活動の選択肢が広がる
- ・人間関係が広がる

それだけじゃない！

- ・地域の人とこどもたちが交流する機会が増え、地域の活性化につながる
- ・教員の働き方改革を推進できる

Interview

国の「休日の部活動（運動・文化活動）における地域展開を進める」という方針を受けて、本市では今まで学校で担ってきた休日の部活動を地域クラブ活動へ展開する準備を行っており、令和8年12月を目途として地域展開を完全実施する見通しです。

学校と地域の連携・協働により、少子化時代にも生徒が希望するスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境づくりを進めています。教員や生徒・保護者・指導者などさまざまな関係者が、出来る限り負担なく関わることができる、持続可能な活動を目指します。

教育委員会 教育推進課
みんなのブカツ推進室 清水



みんなでつくる、新しい活動のカタチ

部活動の地域展開には、地域の指導者や保護者、教員など多くの人の協力が欠かせません。実際に、地域での活動はどのように行われているのか、指導者や生徒の声を交えて紹介します。

四日市ソフトテニス協会が行う練習会（拠点型活動）

四日市中学生ソフトテニススクール

中学校に入学してからソフトテニスを始めました。苦手なこともあるけれど、丁寧に指導してくれるので安心して練習できています。休日はダブルスの練習など、平日の部活動とはまた違う練習内容に取り組んでいます。他の中学校の人と一緒に練習できるので、友達の輪が広がることもこの活動の魅力です。

内部中学校1年生 飯田さん



この会場での活動に参加するのは2回目です。指導してくれる人が、プレーをよく見てくれていて、気になったことがあるとすぐに教えてくれるので、上達しやすいと思います。平日と休日、両方でしっかり練習できて、すごく自分の力になっていると実感しています。もっと上達して、いろんな人から注目される選手になりたいです。

内部中学校2年生 田中さん



市内中学校会場での練習



ラケットの握り方など細かく指導



生徒のレベルに合わせた個別指導

Interview



四日市ソフトテニス協会の役員を務めているつながりから、ソフトテニスの指導員をしています。中学校からソフトテニスを始めた人でも、きちんと試合ができるように、まずは基礎固めに重点を置いています。複数の指導員で、生徒一人ひとりのレベルに合わせて、「どうすれば上手くなるのか」「どう打てばいいのか」を丁寧に教えています。多くの生徒にテニスの楽しさを知ってもらい、ぜひ続けてもらいたいと思います。

四日市中学生ソフトテニススクール指導者 吉川さん



南中学校吹奏楽部を母体とした地域クラブ

四日市みなみウインズ



元々、音楽に興味があって学校の吹奏楽部に入りました。担当のホルンは難しいけれど、だんだん音が出せるようになり楽しくなりました。みなみウインズの活動では、いろんな金管楽器を演奏できる指導員の人っていて、一緒にホルンを吹いてお手本を見せてくれるので、実際にどういう音が鳴るのがイメージしやすく、息の使い方も分かりやすいです。苦手なことを一つずつクリアして、みなみウインズの音楽を、地域の皆さんに届けたいです。

南中学校2年生 葛西さん

以前からピアノを習っていて、他の楽器も演奏してみたいと思い、学校の吹奏楽部に入部しました。3年生になって引退をしましたが、高校に入っても吹奏楽を続けたいと思っています。吹奏楽は楽器を練習して演奏するだけではありません。技術を磨く日々の中での、仲間とのつながりや達成感がこの活動の魅力です。たくさんの人に、吹奏楽の楽しさを知ってもらいたいです。

南中学校3年生 柴田さん



図書室での練習。円になってお互いの音を確認する



地域指導員による実演指導

Interview

中学校での楽器との出会いが、こどもたちの人生を豊かに広げていくきっかけになってくれればと願っています。楽器を長く続けてもらえるよう、正しい姿勢や呼吸など楽器演奏の基本を大切に、日々指導しています。自分ひとりで楽器を始めるのは大変ですが、「みんなのブカツ」なら、これまでの部活動のように誰もが楽器にチャレンジでき、仲間とともに音と心を合わせ、音楽を楽しむことができます。

部活動の地域展開で地域と学校が協力し、「吹奏楽をやりたい」と思ってくれる四日市のこどもたちの可能性を広げ、音楽の入り口を守りたいと思います。

四日市みなみウインズ指導者（南中学校吹奏楽部顧問） 高橋さん

